



発行日=2001年6月25日 発行人=面出薫 編集=田沼彩子・橋本八栄子  
照明探偵団・事務局 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-28-10 ライティングプランナーズアソシエーツ内(田沼彩子)  
TEL: 03-5469-1022 FAX: 03-5469-1023 e-mail=tanteidan@ppp.bekkoame.ne.jp http://www.lighting.co.jp/tanteidan/

# 照明探偵団通信

vol.10 Shomei Tanteidan Tsu-shin

## 展示会レポート

INTEL2001

ライトフェア 2001

## 海外調査レポート

照明探偵団オススメ!

/ ラスベガス街歩きガイド

## 照明探偵団倶楽部新規会員募集

・継続手続き

## 面出の探偵ノート

## 照明探偵団倶楽部活動 1

街歩き報告

## 照明探偵団倶楽部活動 2

研究会サロン報告

## 探偵団日記



# INTEL 2001 展示会レポート

[イタリア・ミラノ] 2001年5月23～27日



INTEL会場

INTELとは、International Electrotechnic s Electronics and Lighting Exhibitions の略で建築・工場等に関する電気・電子及び照明技術を一堂に集めたヨーロッパ最大の産業見本市である。イタリアのミラノ国際展示場（Fiera Milano）で2001年5月23日から27日まで開催された。INTELは2年に1度開催され今回が17回目となる。展示会場は23の棟からなり3つの展示エリア（照明技術、建築管理、工場管理）に分かれている。照明技術の展示は14号館の1階、15号館の1階・2階、16号館の2階からなる。14号館の1階は照明器具のパーツの展示会場となっている。INTELでは出展社を対象にINTEL Design Awardというインダストリアルデザインの賞を設けており受賞商品だけを展示している会場もある。

展示会の意味が日本とイタリアで違う事をレセプションパーティーでの会話で耳にした。日本の展示会では製品（商品）の発表が中心であるのに対しイタリアでは商談の場所と捉えていると聞いた。イタリアの出展メーカーはこのショー以前に何度か国内でのプレ発表を行いその総仕上げとして顧客を会場に招待する。そして商品を確認していただき商談に決着を付ける、との事。そんな流れでこのショーを開催するのでブースのデザインやプレゼンテーションに工夫を凝らすのは当然のことで、気合の入ったハイセンスなブースが数多く見受けられた。イ・グッチーニ、アルテミデ・フロス、ズントベル・スタッフ、タルゲッティーニなど日本でも名の知れたメーカーが大きなブースを構えていた。イ・グッチーニは広いブースの中心に受付を構え、センターゾーンの天井の高い部分に街路灯を展示し周囲に回廊を作りそこに小間割したブースを配し、シリーズごとの照明器具を展示している。レンゾ・ピアノがデザインしたスポットライトなど幾つかの器具は日本ではヤマギワが取り扱っている。アルテミデはスポットライトやダウンライト、蛍光灯器具

といったテクニカルの器具の展示はもちろんのこと F O C U S I N G / T A K I N G C A R E / S H O W I N G / S H A R I N G / M E E T I N G - W O R K I N G / C R O S S I N G といったテーマで照明器具を展示していた。テクニカルの器具は現物を分解して見せたりテーブルに現物を組み込み鏡を使用して器具の裏側まで詳細に見せる工夫をし器具に対する自信が伺える好感の持てる展示であった。FOCUSINGはLEDを使用した小型のスタンドのシリーズ、TAKING CAREは蛍光灯にダイクロミラーフィルターを取り付けたシステムで、3灯で1組になりRGBで各蛍光灯に調光をかけ光の色を変化させるものであった。生活のリズムと癒しを狙ったぬいぐるみ照明器具であり、面白く新鮮に感じた。



アルテミデのぬいぐるみ照明器具



イ・グッチーニのブース



ピニンファリーナデザインの街路灯・灯具

SHOWINGは建築外観用間接照明システムと天井吊り照明システム、CROSSINGはデルッキデザインの街路灯・庭園灯、フォスターデザインのポラード型をした投光器のシリーズが目をついた。

イタリアはさすがにデザイン大国で照明器具のデザインにおいても著名な建築家やプロダクトデザイナーの起用が目立つ。ミラノ国際展示場もしかりでマリオ・ペリーニの設計、レンゾ・ピアノ、ノーマン・フォスター、ミケーレ・デルッキ、名前を上げればきりが無い。

その中で目を引いたのがピニンファリーナである。彼はフェラーリなどのスポーツカーのデザインにおいて有名であるが、その彼がなんと街路灯のデザインをしているのである。Schreder Group GIEというメーカーから発表されていた。近い将来、ブランドに目がない日本に進出して来るかもしれない。

照明器具の特徴としてスポットライトはアルミの鋳造で梨地仕上げ、吊り下げ型蛍光灯器具はT-5のランプが中心、埋め込み型蛍光灯器具もT-5になりつつある。街路灯はストレートポールに灯具部分を任意の位置にはさんで固定するタイプが見受けられた。

その他として3Mは側面発光など導光体の展示を中心にブースを展開していた。LEDと導光体の組み合わせなどは今後に期待が持てそうである。日本に上陸する日は近いと思われる。またハイウェイの道路灯で事故が発生した時に、事故現場を知らせる仕組みとして灯具の側面にオレンジ色の光が点灯するシステム（GEWISS社のMultifunctional road lighting system）が発表されていた。このシステムが日本にあれば夜間の事故渋滞もイライラしないで済むかもしれない。やはりIntel Design Awardを受賞していた。

# ライトフェア 2001 展示会レポート

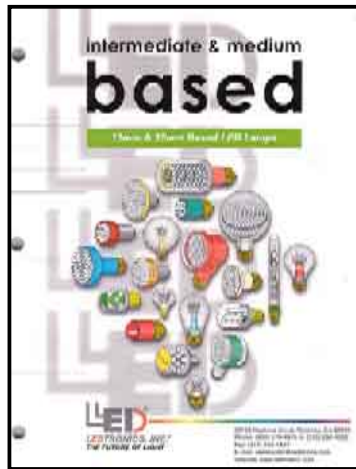
[アメリカ・ラスベガス] 2001年5月30日～6月1日



展示会場内の風景

5月30日から3日間、ラスベガスのコンベンションセンターで開催された「インターナショナル・ライト・フェア2001」は、照明器具メーカー、ランプメーカー、その他照明関連の部材メーカーなど約500社ほどの出展があった。フェア全体の傾向としては、省エネルギーをうたい文句に長寿命、高効率のランプの出展が目立った。特にLED（発光ダイオード）を光源とした器具やランプは多く、製作しているメーカーはどれも積極的にアピールしていた。このLEDというものは、身近なところで色々な家電製品の電源や操作盤のインジケーションとして利用されており、電車の車内駅名表示盤や信号機などにも利用されている。これらは照明という機能とは別にサインの光として使われており、その役目からしても長寿命で消費電力が少ないことが前提となる。そのLEDを色々な照明器具の中に納めて売り出すということが、省エネルギーに対する会社の姿勢を表すようなものになっている。このような動きは海外に限らず日本国内でも同様で、大手照明メーカーは何かしらLEDを使った照明器具をカタログに掲載している。ただそれらはインジケーション的な効果を持つものが多く、明るさをとるものではない。光の色味もまだバリエーションが少なく、コスト面でも以前に比べれば安くはなったが、LED素子一粒で約300円前後（白色の高輝度タイプ・秋葉原での値段）といった感じである。最近になって素子にかぶせるレンズ（半球状のプラスチックカバー）に改良が施され、さらに素子の周りに反射鏡を付けたものなど、輝度だけでなく明るさを確保するための光源としての開発が進んできた。

下に掲載したLEDのカタログはLEDトロンクス社というランプメーカーのもので、多種多様な用途に合わせたLEDランプをラインナップしていた。今回のライティング・フェアでもこのように多くのLED器具が出展されていたが、本当の省エネルギー光源としてもはやされるのは、まだまだこれからと言えよ



LEDトロンクス社のカタログ

LED以外では、光ファイバーが従来の意匠的な使用方法の紹介ではなく、様々な先端器具（光ファイバーの先に取り付け、照明器具のように扱うための金具）を用いた展示が行われていた。こちらはLEDとは違い光源自体は新しいものではないが、別の場所に置かれた光源から光ファイバーを通して光を運ぶものである。先端器具を照明器具として扱う場合には器具の大きさが小さく、熱もないという利点があり、光の色味も自然なものが選択できる。おまけに紫外線もカットできるので、最近では美術館の陳列棚の照明によく使用される。

また以前よりも先端器具が多様化し、室内のダウンライトとしての使用も可能になっている。ただし、こちらはコストが高いため、一般的に普及するのはものではないだろう。ごく一般的なランプとして蛍光灯などでは、発光管を従来のものより細くし、消費電力を減らした上で発光面積を狭くし、輝度（発光効率）を上げたランプが主流になってきている。これらの蛍光灯は、性能の良い反射鏡を持つ器具に取り付けることで効率良く光を照射してくれる。日本ではまだまだ従来の蛍光灯が多くを占めているのであまり見る機会がないが、今後はこのような蛍光灯が日本のオフィスビルなどに普及していくことだろう。その他に目を引いたのが屋外用の照明器具である。とにかく種類が豊富であった。これは、日本とは違い、欧米などでは庭を持つ住環境が多いからだろう。庭で使うためのアプローチ灯やプールや池で使う水中照明など多種多様な器具が今回のフェアに出展されていた。面白いものでは、植栽の中に差し込み木々を照らすスポットライトで、わざと本体の形を笹などに見立てた器具やカタツムリの形をした器具があった。話だけだと笑ってしまうが、実物を見ると結構本気で仕上げているのである。このちょっとした創意工夫に少しばかり照明に対する熱意を感じた。今回のライティング・フェアでは、新光源など画期的なものはそれほどない印象を受けた。ただ、海外の照明器具の豊富さや発想の豊かさは見ていて面白いものであった。省エネルギーが強く叫ばれる時代ではあるが、光に対する発想を豊かにし、相互にしのぎをけずりながら発展していくことで、本当に豊かな暮らし（光環境）が生まれてくるような印象を受けた。

# 照明探偵団オススメ！ ラスベガス街歩きガイド

調査実施日：2001年5月29～30日

ストラトスフィアタワー  
から見たストリップ全景  
ここで三脚をたてると係の人に  
怒られてしまうので注意が必要

昼間まじめにライトフェアをレポートしたら、夜はもちろん照明探偵！というわけで休む間も惜しんで街に繰り出しましょう。

やはりここはラスベガス、眠らない街というだけあって、みどころも盛り沢山です。夜景や豪華なホテルの内部はもちろん、ホテル前で繰り広げられる無料のアトラクションショーもしっかり堪能したいもの。ここではこれだけはおさえておきたいラスベガスの探偵スポットをいくつかご紹介します。

世界最高所の絶叫マシン  
「ビッグショット」



## spot1：ストラトスフィアタワー

まず「街全体を把握するためには高いところから」というセオリー通り、ストリップと呼ばれるメインストリート北端に位置するストラトスフィア（成層圏の意）タワーに上ってみることをおすすめします。その前に明るい間にホテルの周りをじっくり歩いておくのを忘れないこと。日没前にはタワーに上り、ゆっく

りと時間をかけて昼間とは全く違う顔に変化していくラスベガスを眺めてみましょう。「あ、昼間見たあの照明は遠くからみるとこんな風になるんだ」と新しい発見がきつとあるはず。

さらにおすすめしたいのはこのタワー先端にあるビッグショットというアップダウンライドの絶叫マシン。ストリップの方向に席を陣取って見渡す最高所からの眺めはまさに絶

景！！

## spot2：フリモントストリート

高い所からの夜景を堪能したあとはタワー北側のダウンタウンで一大スペクタクルショーを觀賞しましょう。場所は、今こそストリップにラスベガスの主役の座を譲ってしまっているけれど、もともとの中心地であるフリモントストリート。そのフリモントストリートに再び観光客を呼び戻そうと1995年にこの通りのカジノが共同出資して創り上げたのがフリモントストリートエクスペリエンスです。通りには高さ27m、長さ450mの巨大アーチがかけられていて、一時間に一度ショーが催されます。アーチ一面を覆う210万個の電球が織り成す光のショーは圧巻！！でも白熱電球でできているそうなのでメンテナンスが大変そう・・・

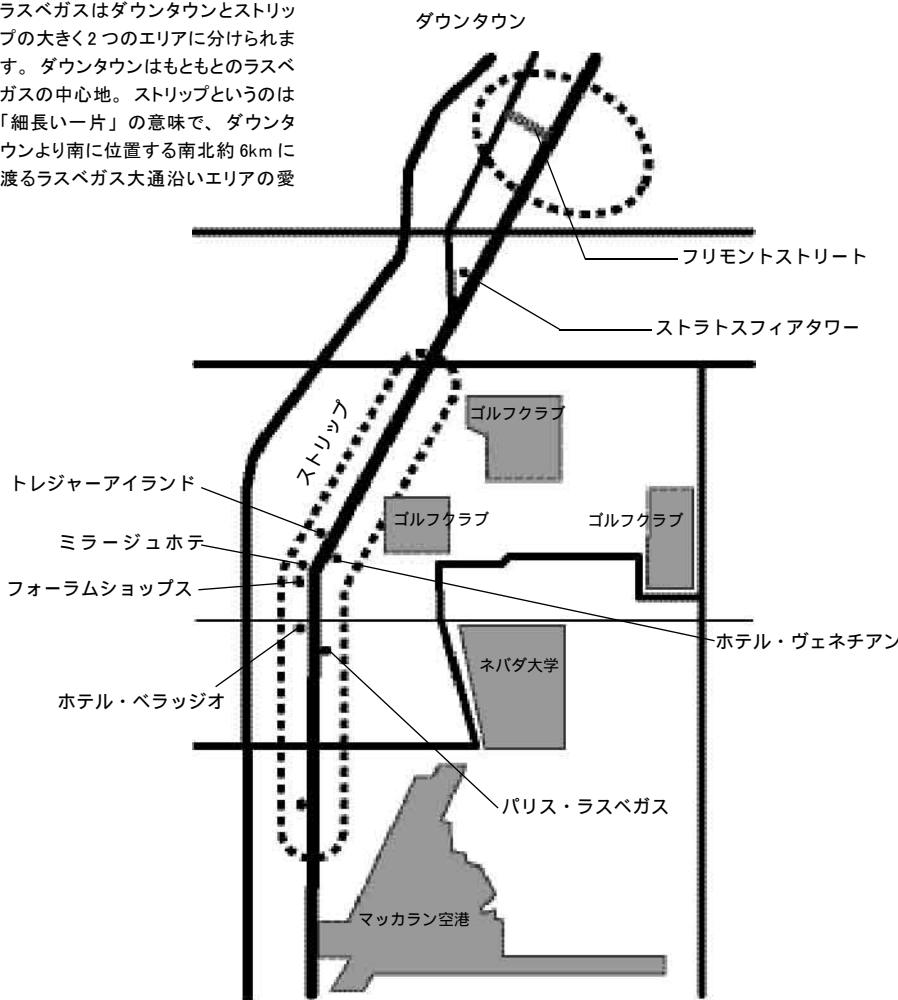


フリモントストリート

(ショー開催時の写真は表紙に掲載されています)

## ラスベガスマップ

ラスベガスはダウンタウンとストリップの大きく2つのエリアに分けられます。ダウンタウンはもともとのラスベガスの中心地。ストリップというのは「細長い一片」の意味で、ダウンタウンより南に位置する南北約6kmに渡るラスベガス大通沿いエリアの愛



## spot3 : ベラッジオの噴水ショー

夜景はなにも高いところからとは限りません。周囲が砂漠ということもあって地上にいても美しい薄暮の空を眺めることができるのがラスベガスのいいところ。

さて、この時期のラスベガスの日没は7時50分ごろ。あたりが黄昏てきたら迷わずホテルベラッジオ前へ。ここでは昼は30分に一度、夜は15分に一度（結構頻繁です）ホテル前の池で噴水ショーが催されます。ねらい時はこの日没時のショー。昼のショーと較べるとあまり派手には噴き上がりませんが、美しい音楽を聴きながら涼しげな水しぶきと暮れゆく空に耽ってみるのもよいのでは。

このほかストリップ沿いのホテル前には無料で楽しめるアトラクションがいっぱい。トレジャーアイランドの海賊船バトルでは大砲が鳴り響き、隣のミラージュホテルでは火山が噴火、などなど道行く人々を楽しませてくれます。ホテル前に限らずふらっと中ものぞいてみましょう。テーマホテルというだけあって、ロビーやカジノフロアもそれぞれ工夫されて



ミラージュホテルの火山

山の頂から上がる噴水を赤い光でライトアップするという仕掛けそして花火が上がリ、あたりは本物の炎に包まれる・・・・・・15分ごとに噴火するのでストリップを歩いていると一度は目にする

ベラッジオの噴水ショー  
昼のショーでは70mを超える高さまで噴き上がる

いて一見の価値アリ。

## spot4 : フォーラムショップス

街歩きに疲れたら（！？）お買物はいかがでしょう。ここフォーラムショップスは古代ローマの町並みを模した一大ショッピングモールで夜11時まで開店しているのも魅力のひとつ。天井には空が描かれ屋外さながらの時の移り変わりを演出しているのでここが建物の中であることを忘れてしまいそう。日本では東京臨海副都心のビーナスフォートでおなじみのこの屋内の空ですが、こちらが本家本元。買い物予定のない人も、刻々と変わる空の色や1時間に1度催される彫刻が動き出すアトラクションなどで楽しむことができます。お昼に行っても夜景？がゆっくり楽しめる不思議なところですよ（9ページに



フォーラムショップスの泉

関連記事が掲載されています）。

ラスベガスで夜景写真を撮ろうと思ったら、ねらいはやっぱり薄暮黄昏時。この時間は一日に一度しか訪れないのでどこを撮るかをあらかじめ決めておくのもポイントです。最低2日はかけたいラスベガスの街歩き、あ

## 照明探偵が語る ニューオープンのホテル

## ホテル ヴェネチアン

ストリップ北側のボスがホテル・ヴェネチアンである。その名の通りイタリア様式建築風の建物で、大きなヴォールト天井のガレリアと、運河を中心としたショッピングブロンナードが目玉となっている。

他のホテルに比べてディテールに強いこだわりがあり、天井に描かれた絵画や柱などの細部設計もラスベガスとはいえ見ごたえがある。照明でもハロゲンランプを主体とした小さな照明器具を駆使し、グレアカットの光学制御やトリムの化粧などのディテールに相当なこだわりを見せている。ただその反面、全体感が希薄な印象に仕上がっているのがやや残念なところ。外観・内観通じての丁寧な仕事ぶりは◎。

(戸恒 浩人)



パリ・ラスベガスのエッフェル塔



ホテル・ヴェネチアンの運河

## パリ・ラスベガス

99年にオープンしたこのホテルのテーマはずばり”PARIS”。本物の1/2のエッフェル塔や2/3の凱旋門をはじめ、ルーブル美術館、コンコルド広場、オペラハウスなどまで再現されている。おまけにスタッフも「ボンジュール!!」などと声をかけてくる徹底ぶり。夜も本場同様の暖かな光でライトアップされており、従来の極彩色派手派手夜景の中にあって、向かいのホテル・ベラッジオと共にこの一体は少しだけエレガントな雰囲気になっている。また高さ165mのエッフェル塔上部の展望台は午前2時までオープンしており、夜景を眺めるポイントとしても評判。ストリップの中心地に位置する展望台はストラトスフィアタワーとはひと味違った夜景を堪能できる。

(窪田 麻里)